



# 校長雑感

令和8年7月1日  
荒川区立第四中学校  
学校だより 7月号

## 「修学旅行」

校長 横林 泰介

平成6年に初めて教員として修学旅行の生徒引率をした。5泊6日の行程(順に寝台車1泊、京都2泊、東京2泊)だった。

朝5時に清里高校へ集合し、網走駅までバス、網走から札幌まで汽車、札幌から函館まで汽車、函館から青森まで青函トンネルを通る汽車、青森から大阪まで寝台列車「日本海」(ブルートレイン)での移動だった。

大阪に着いたのは翌日の午前10時、なんと29時間もかかった。

大阪から奈良へ向かうバスでは、疲れ果てており全生徒が爆睡していた。

当時の北海道の高校生は、道外へ行ったことがない、当然新幹線・飛行機も利用したことがない生徒ばかりであった。人生の中でもビックなイベントであり、子どもの頃からずっと楽しみにしている。

修学旅行の2日前、自分のクラスの生徒が部活で怪我をした。一緒に病院へ付き添い、レントゲンを撮り、生徒と待合室にいた。看護師さんの声が漏れ聞こえてきた。「折れている!!あの子修学旅行行けないね。可哀そう。」怪我した生徒が悲しい表情へと一変した。私も一変し「絶対にこの生徒を連れていくぞ。」と決意した。

次の日、本当に長いロングホームルームとなった。汽車の乗り換え時に誰が荷物を持ち、松葉杖を持ち、生徒を背負うか。一緒に行ける行程を生徒たちと確認した。生徒たちは全行程可能と判断したが、管理職・保護者・旅行業者との話し合いで、班行動は教頭先生と行動することで決着した。本人も納得してくれた。

旅行中は、生徒がよく動き骨折した生徒の支えとなった。関西初日に東大寺に行った。あまりにも大きな大仏を見た生徒の驚いた顔、口が開きっぱなしの生徒を見た時に、「生徒たちを修学旅行に連れてきてよかった。」と思った。帰りは東京から飛行機だった。行きは29時間、帰りは2時間、こんな経験もいい思い出だ。離陸した時に大きな拍手とともに歓声を生徒全員があげた。勿論貸し切りではなく、他のお客さんが沢山いて恥ずかしかったが、初めて乗った飛行機が離陸した時の感動を、修学旅行で仲間と共感できるのは幸せである。修学旅行初引率は私にとっても最高に幸せだった。

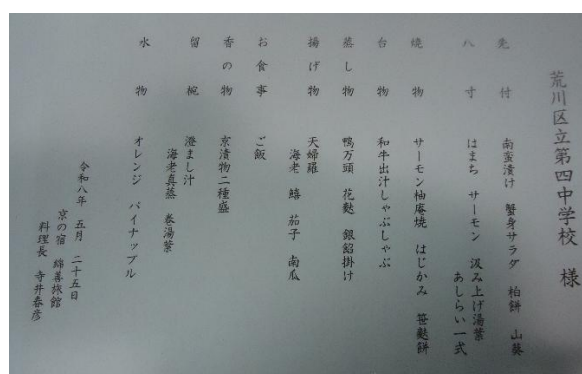
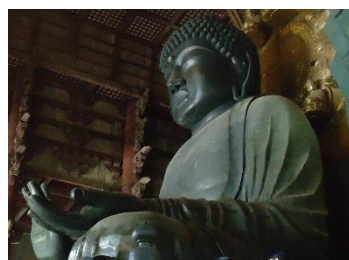


修学旅行が終了した次の日、私は地球の重力を感じ布団から離陸できなかった。

## 【修学旅行】

運動会からほぼ一週間後の5月24日(日)～26日(火)、奈良・京都方面に行ってきました。暑い中、班で協力し合い予定通り行動でき、3年生のたくましさを沢山見られました。そして関西の方々の「おもてなし」の心地よさに感動しましたね。楽しい時間は不思議に一瞬に過ぎるものです。

中学生も大人も全く一緒だと思います。一瞬の楽しみを味わうために、日々勉強・仕事をします。継続するためには、1日のどこかに自由時間をつくると良いと思います。2時間勉強したら1時間漫画を読んでもゲームをしてもよいと決めよう。私の場合、自由時間を設定することが勉強を集中させることにつながりました。



## 読書に関する有名人の言葉

子どものころからたくさん本を読んで、自分でものを考えろと言われて育った。

親は、本や政治や、その他いろいろなことについて、子どもたちを交えて話し合った。

ビル・ゲイツ